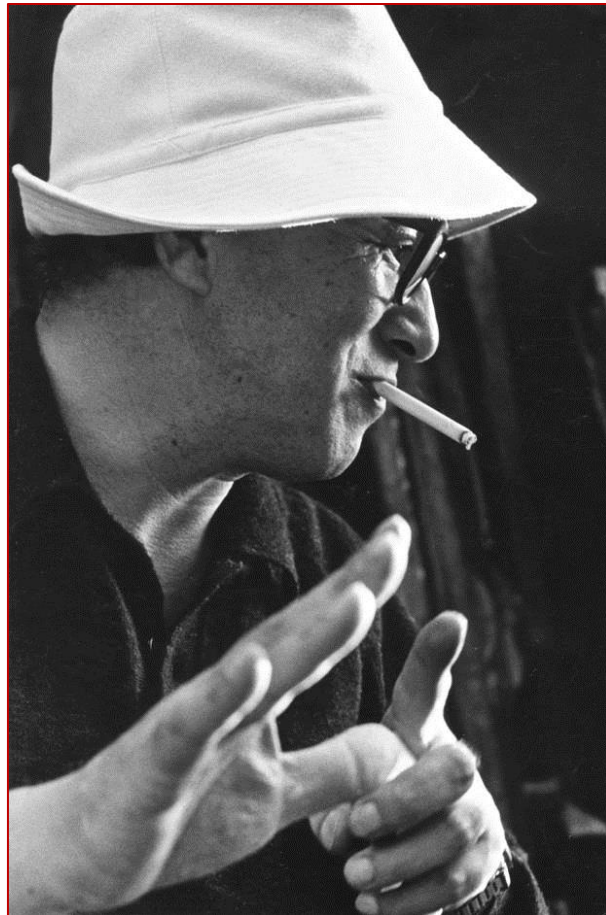


報道関係各位

生誕100年 映画監督・小林正樹

ふかくこの生を愛すべし

2016年7月16日[土]—9月15日[木]



画像1
写真提供：芸游会

「ふかくこの生を愛すべし」— 師・會津八一より贈られた「^{*注}学規」より

*注 「学規」は四力条から成る書。

(一、ふかくこの生を愛すべし 一、かへりみて己を知るべし 一、学芸を以て性を養うべし 一、日日新面目あるべし)

広報に関するお問い合わせ：世田谷文学館学芸部 佐野・井波

157-0062 東京都世田谷区南烏山 1-10-10 TEL 03-5374-9111 / FAX 03-5374-9120

カンヌ国際映画祭で世界の十大監督の一人として、 功労賞を贈られ、その作品が「^{はがね}鋼鉄の日本映画」と絶賛された 映画監督・小林正樹の世界がここに！

『人間の条件』『切腹』『怪談』『化石』『東京裁判』などで知られる世界的巨匠・小林正樹（こばやし・まさき 1916～1996）。生誕 100 年・没後 20 年にあたり、その生涯と全仕事を小林監督旧蔵の膨大な作品資料などで振り返ります。

戦争当事者として、被害者でありながら加害者である日本人の二重性を深く見つめた小林作品の重要性は、戦後 70 年を経てますます高まっています。初公開の手記など貴重な自筆資料も交え、敬愛する師・會津八一との交流や戦争体験によって培われた、小林正樹の揺るぎない信念と美の根源に迫ります。

PROFILE プロフィール



小林正樹(こばやし・まさき 1916—1996)

北海道小樽市生まれ。早稲田大学在学中に東洋美術を専攻し、會津八一に師事。1941 年、松竹大船撮影所助監督部に入るが、翌年応召し、満州でソ満国境警備につく。44 年、宮古島に移動し終戦を迎えたのち、沖縄の嘉手納捕虜収容所で 1 年の補虜生活を送る。復員後、撮影所に戻り、助監督として木下恵介監督につく。52 年、中編『息子の青春』を監督し、翌年木下が脚本を手がけた『まごころ』で正式に監督に昇進。以後、『この広い空のどこかに』などの家族映画のほか、BC 級戦犯を描いた『壁あつき部屋』、プロ野球の内幕を暴く『あなた買います』、退廃的な基地の町を背景にした『黒い河』などで社会派監督として評価を高める。9 時間半におよぶ五味川純平原作の大長編『人間の条件』6 部作はヴェネツィア国際映画祭サン・ジオルジョ賞はじめ国内外の映画賞を受賞。初の時代劇『切腹』はカンヌ国際映画祭審査員特別賞、続く小泉八雲原作の初のカラー作品『怪談』でも同賞を受けるが、莫大な製作経費をかけた本作により多額の負債を抱え、麻布にあった邸宅を手放して以後、世田谷区梅丘の借家に暮らす。その後も『上意討ち一拝領妻始末』でヴェネツィア国際映画祭国際批評家連盟賞を受賞するなど世界的巨匠として名声を高め、71 年にはカンヌ国際映画祭で世界 10 大監督の 1 人として功労賞を受賞。さらに自身の戦争映画の集大成として足かけ 5 年の歳月をかけて長編記録映画『東京裁判』を完成させるが、長年温めていた井上靖原作の『敦煌』は製作サイドとの方針の食い違いにより断念。円地文子原作の『食卓のない家』が遺作となる。晩年は、親類にあたる田中絹代の顕彰にも力を注ぎ、遺品の整理のほか毎日映画コンクールの田中絹代賞創設に尽力。恩師・會津八一の伝記映画を準備中の 96 年、心筋梗塞により区内の自宅で死去。

画像 2
写真提供：芸游会

TOPICS 見どころ

- ◎小林監督生誕100年・没後20年となる区切りの本年。デビュー作から晩年の大作までの**全仕事を、未公開の手記**を含む貴重な自筆資料などで紹介！
- ◎會津八一の教えや戦争体験に培われた**小林正樹の揺るぎない信念と美意識の根源**に迫る！
- ◎フィルム**上映会**と関係者による**トーク**を開催！
- ◎**幻のシナリオ**『われ征かん』^{さきもり}『防人』載録、仲代達矢、岸恵子、川本三郎による寄稿エッセイを含むカタログ(136頁・予定)を刊行！

OUTLINE 概要

展覧会名	生誕100年 映画監督・小林正樹
会期	2016年7月16日(土)～9月15日(木)
会場	世田谷文学館 http://www.setabun.or.jp/ 157-0062 東京都世田谷区南烏山1-10-10 TEL 03(5374)9111 FAX 03(5374)9120
開館時間	10:00～18:00 *展覧会入場、ミュージアムショップの営業は17:30まで
休館日	毎週月曜日(7月18日は開館、翌19日休館)
交通案内	京王線:「芦花公園」駅南口より徒歩5分 小田急線:「千歳船橋」駅より京王バス(千歳烏山駅行)利用「芦花恒春園」下車徒歩5分
観覧料	一般800(640)円 / 65歳以上、高校・大学生600(480)円 / 小・中学生300(240)円 障害者手帳をお持ちの方400(320)円 ※()内は20名以上の団体料金割引料金・「せたがやアーツカード」割引料金 ※7月22日(金)は65歳以上無料
主催	公益財団法人せたがや文化財団 世田谷文学館
特別協力	一般社団法人小林正樹監督遺託業務世話人会・芸游会
後援	世田谷区、世田谷区教育委員会
助成	芸術文化振興基金
展覧会担当	世田谷文学館学芸部 庭山、小池



「映画監督小林正樹 生誕100年プロジェクト」http://www.shochiku.co.jp/kobayashi_masaki/

EVENTS 関連イベント

(1) 『この広い空のどこかに』

フィルム上映会&ミニトーク

(1954年、松竹大船、111分、白黒)

脚本：楠田芳子、松山善太／撮影：森田俊保／美術：平高主計／音楽：木下忠司／出演：佐田啓二、久我美子、高峰秀子、石濱朗 他

酒屋を営む一家が抱える複雑な心情と、まだ戦争の傷跡が残る人々の生活を細やかに描いた家族映画の名作。

■上映後、出演者の石濱朗氏によるミニトークがあります

日時：7月16日(土) 14:00～

対象：当日先着100名

(上映1時間前より整理券を配布)

会場：世田谷文学館1階文学サロン

参加費：1000円

(2) 『怪談』 フィルム上映会

(1965年、東宝・にんじんくらぶ、161分、カラー)

原作：小泉八雲／脚本：水木洋子／撮影：宮島義勇／美術：戸田重昌／音楽：武満徹／出演：新珠三千代、岸恵子、中村賀津雄、中村翫衛門 他

小泉八雲の怪奇譚から4編をオムニバス形式で映画化。巨大セットを駆使して幻想的な色彩や音の表現を追求した日本映画屈指の野心作。

日時：7月23日(土) 13:00～

対象：当日先着100名

(上映1時間前より整理券を配布)

会場：世田谷文学館1階文学サロン

参加費：1000円 *途中休憩あり

(3) 『東京裁判』 フィルム上映会

(1983年、講談社、277分、白黒)

原案：稲垣俊／脚本：小林正樹、小笠原清／編集：浦岡敬一／音楽：武満徹／ナレーター：佐藤慶 自身の戦争映画の集大成として小林正樹が取り組んだ大長編ドキュメンタリー。戦後日本の進路を決定づけた「極東国際軍事裁判」の全貌を、米国防総省が撮影した膨大な記録フィルムを中心に、5年の歳月をかけて構成。ベルリン国際映画祭国際批評家連盟賞受賞。

日時：7月30日(土) 13:00～

対象：当日先着100名

(上映1時間前より整理券を配布)

会場：世田谷文学館1階文学サロン

参加費：1000円 *途中休憩あり

(4) 『切腹』

フィルム上映会&トークショー

(1962年、松竹京都、134分、白黒)

原作：滝口康彦／脚本：橋本忍／松山善太／撮影：宮島義勇／美術：戸田重昌、大角純平／音楽：武満徹／出演：仲代達矢、石濱朗、岩下志麻、三國連太郎、丹波哲郎、佐藤慶 他

切腹のため庭先を借りたいと大名屋敷を訪れた浪人の悲劇を描く、脚本・撮影・美術・音楽のすべてに完全主義が貫かれた、小林監督初の時代劇にして代表作。カンヌ国際映画祭審査員特別賞受賞。

■上映後、出演者の仲代達矢氏によるトークショーがあります(聞き手：春日太一氏)

日時：8月7日(日) 13:00～

対象：事前申込による100名

申込方法：

この回のみ、7月24日(必着)までに、往復ハガキに ①イベント名 ②参加希望者の名前(2名までの連名可) ③代表者の住所と電話番号 を明記のうえ、

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山1-10-10

世田谷文学館 イベント係へお申し込み下さい。

会場：世田谷文学館1階文学サロン

参加費：1000円

(5) 夏ボラ 募集中!

映画人(ボランティアスタッフ)の募集

展示会会期中に開催されるイベントのボランティアスタッフを募集します。講座の準備や、会場整理などをお願いします。映像や映画が好きな人、集まれ!

日時内容：個別にご相談

対象：中学生・高校生(事前登録制10名)

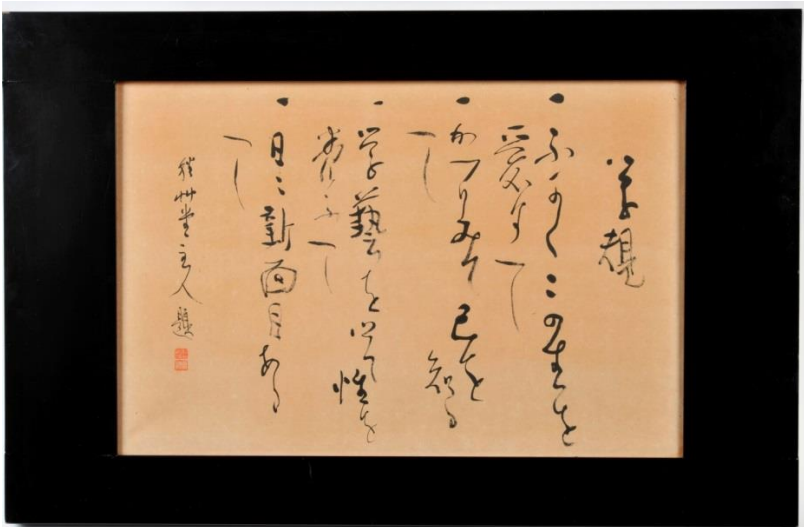
その他：参加費無料

※詳細・申込・打合せは

Eメール kodomo@setabun.or.jp

へお問い合わせください。

IMAGES 広報写真



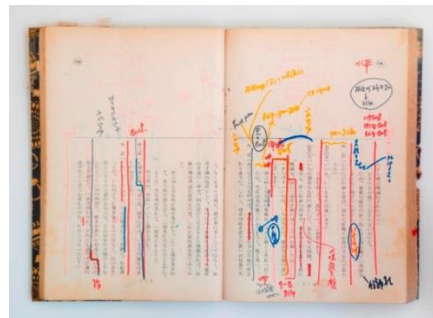
画像3
早稲田大学卒業時に會津八一から贈られた書「学規」。弟子と認められた者に書き与えられた四カ条からなるこの書を、小林は生涯の指針とした。



画像4
カンヌ国際映画祭授賞式にて（世界十大監督の1人として贈られたカンヌ国際映画祭25周年記念功労賞） 1971年



画像5
自身初のカラー映画『怪談』（1965年）の色彩イメージを構想するために作られた設計図



画像6
『上意討ち一拝領妻始末』（1967年）の撮影で小林監督が使用した台本



画像7
世界十大監督の1人として贈られたカンヌ国際映画祭25周年記念功労賞トロフィー 1971年



画像8
『化石』©1972 仕事



画像9
『東京裁判』写真提供：講談社

生誕 100 年 映画監督・小林正樹 広報用画像貸出申込書

世田谷文学館学芸部 佐野・井波 行
FAX 03-5374-9120

展覧会広報用の画像をご用意しています。ご希望の際は下記貸出条件をご確認のうえ、本申込書に必要事項をご記入いただき、ファックスにてお申し込みください。EメールにてJPEGデータで画像をお送りいたします。

本展紹介記事をご掲載いただく際は、恐れ入りますが情報確認のため、刊行・更新前に校正紙をPDF等でお送りください。また、刊行後掲載誌を1部、お送りいただけますようお願い申し上げます。

【広報用画像貸出条件】

- ◆画像は展覧会紹介の目的のみにご使用ください。
- ◆画像のトリミング、画像に文字を重ねるレイアウトはお控えください。
- ◆画像データは、ご使用後必ず消去してください。
- ◆画像データを第三者に渡すことを禁じます。
- ◆インターネット上で掲載する場合には、画像をコピーできないよう処置し、会期終了後はWEBサイトから必ず削除してください。

雑誌名・番組名・WEBサイト名 : _____

媒体種別 : 新聞・雑誌・フリーペーパー・テレビ・ラジオ・WEBサイト _____

発売・放送・更新予定日 : _____

御社名 : _____

御担当者名 : _____

御住所 : _____

Eメールアドレス : _____

電話番号 : _____ FAX番号 : _____

画像（画像クレジット[画像1、2、8、9]は、必ず付して下さい。）

- 画像1 肖像1 写真提供：芸游会
- 画像2 肖像2 写真提供：芸游会
- 画像3 會津八一から贈られた書「学規」
- 画像4 カンヌ国際映画祭授賞式にて 1971年
- 画像5 自身初のカラー映画『怪談』（1964年）の色彩イメージを構想するために作られた設計図
- 画像6 『上意討ち一拝領妻始末』（1967年）の撮影で小林監督が使用した台本
- 画像7 カンヌ国際映画祭25周年記念功労賞トロフィー 1971年
- 画像8 『化石』 ©1972 仕事
- 画像9 『東京裁判』 写真提供：講談社